

うできき足立

2026
VOL.
2
TAKE
FREE

アダチブランド
モノヅクリ マガジン

うできき足立とは

優れた技術やその能力を持つ人を「腕利き」と表現します。

少し近寄りがたい「腕利き」という言葉も、

ひらがなで書くとグッと身近に感じられませんか？

「うできき足立」。あなたのお傍に、足立のものづくり。



人気の前号も配布中!

足立区の各施設等で配布しております。
是非お手にとってご覧ください。

足立ブランドの
詳しい情報はこちら!



WEB



X



facebook

独創的な
職人の技。

足立のものづくりを知る



FC ADACHI

ADACHI BRAND



FC ADACHI



足立ブランドとは

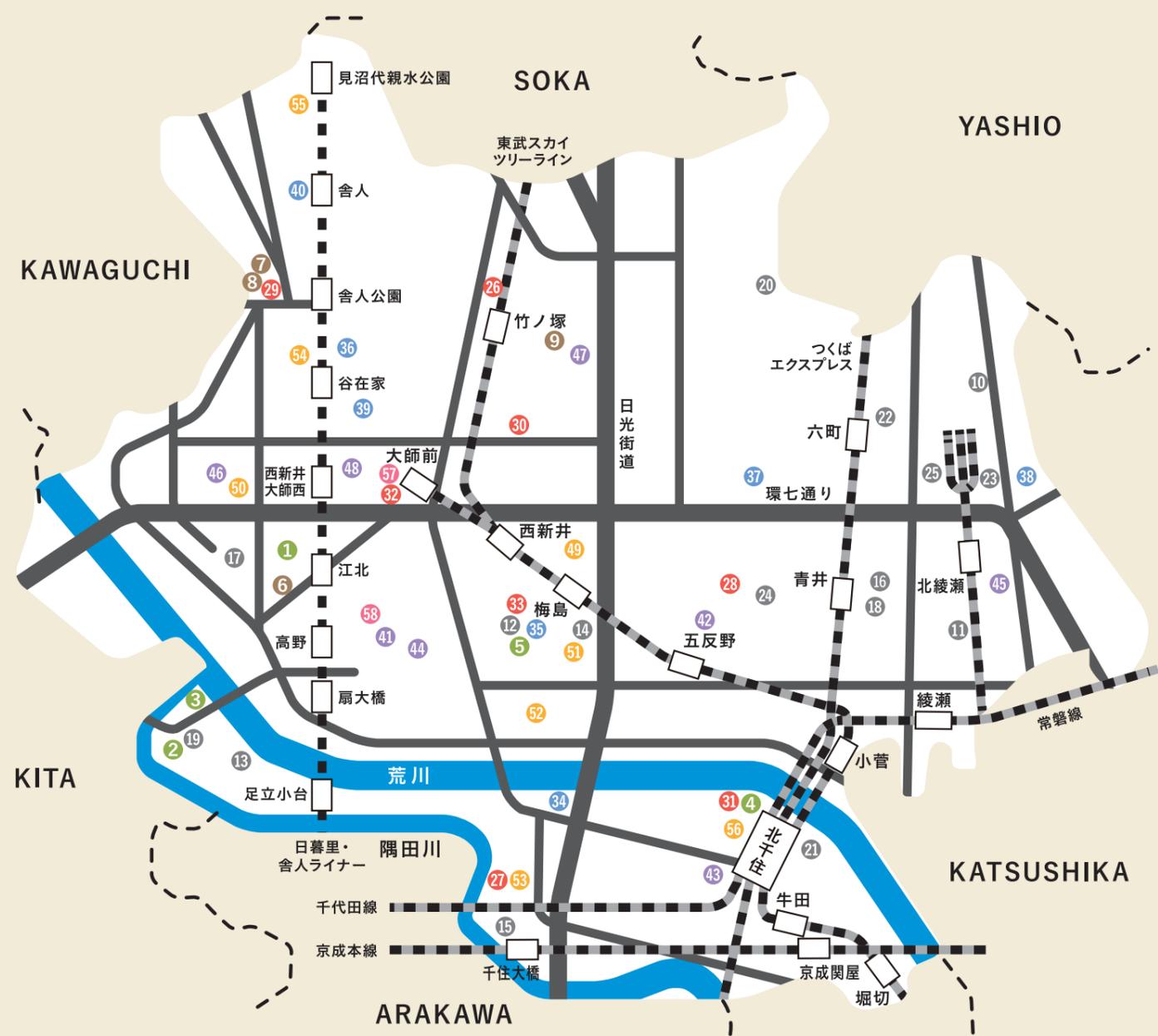
23区内でも第2位の工場数を誇る足立区は、東京屈指のものづくりの街です。皮革、金属、プラスチックから縫製、印刷まで、多様な工場で働く様々な職人たちが、街の発展を支えてきました。

その中でも、特に技術力が高く、未来への大きなビジョンを持つ企業を区が認定したのが「足立ブランド」です。

平成19年度に11社からスタートした「足立ブランド」は、8業種58社(2026年1月現在)までに成長しました。「足立ブランド」に認定された企業の集合体を「FC ADACHI」と呼んでいます。

※ FCは「Free Company=自由な繋がり、自由な仲間」の略。
ブランド事業を通じて足立区を盛り上げるチームの意味合いです。

足立ブランドで認定している8業種



足立ブランド認定企業

印刷 | PRINTING

- ① (株)安心堂
- ② 日商印刷(株)
- ③ (株)しまや出版
- ④ (株)丸庄
- ⑤ (有)クラ工業

機械器具 | MACHINERY

- ⑥ 沼田光器(株)
- ⑦ 東京電源(株)
- ⑧ 一文機工(株)
- ⑨ 秀和工業(株)

金属 | METAL

- ⑩ 三祐医科工業(株)
- ⑪ (株)横引シャッター
- ⑫ ザオー工業(株)
- ⑬ (株)フクムラ
- ⑭ 岩城工業(株)
- ⑮ (有)カシマウェルディング
- ⑯ (株)鈴木製作所
- ⑰ (株)ビーファクトリー
- ⑱ タカラ工業(株)・タカラ樹脂工業(株)
- ⑲ (株)ナカザ

青木金属工業(株)

- ⑳ 青木金属工業(株)
- ㉑ (有)森谷製作所
- ㉒ (株)トミテック
- ㉓ ジャパンフィルター(株)
- ㉔ (有)五味彫刻工業所
- ㉕ (株)仲代金属

工芸品 | CRAFT

- ㉖ (有)プリントアート
- ㉗ (有)坂巻製作所
- ㉘ (有)栗原金庫製作所
- ㉙ (有)大塚竹管楽器
- ㉚ (株)松崎人形
- ㉛ 渡邊靴
- ㉜ (株)Crista
- ㉝ はな吉

樹脂 | RESIN

- ㉞ (株)ヨシオ
- ㉟ 進栄化成(株)
- ㊱ 東京バック(株)
- ㊲ (株)オーエム
- ㊳ ミユキ精工(株)
- ㊴ (株)フジシロ
- ㊵ ミツワ(株)

生活関連 | LIFESTYLE

- ㊶ (株)グレイスエンブ
- ㊷ 野村畳店
- ㊸ (株)洋かつらセンタールミアン
- ㊹ パッケージアート(株)
- ㊺ 小川畳店
- ㊻ (株)マーヤ
- ㊼ (株)エアロテック
- ㊽ ユコー(株)

皮革 | LEATHER

- ㊾ ナース鞆工(株)
- ㊿ (株)祥力
- ㊽㉑ ファーストステップシューズ
- ㊽㉒ 東洋皮革(株)
- ㊽㉓ (有)篠原刃型
- ㊽㉔ (有)AKASHIYA
- ㊽㉕ (有)ヴェールポイント
- ㊽㉖ (株)和宏

乗物 | VEHICLE

- ㊽㉗ 堀田製作所
- ㊽㉘ (株)よろず自動車

※認定年度順



シルク印刷を内製する
金属プレス部品と銘板の一貫工場

こうぎょう

ザオー工業(株)



〒123-0852 足立区関原2-11-26
☎03-3848-2301
<https://zaoh.com/>



一貫生産の力。金型から印刷までを一社で

ザオー工業は、「金型製作」「プレス加工」「シルク印刷」を一貫して行う全国でも稀な金属加工メーカー。創業は1968年。銘板(ネームプレート)製作からスタートし、現在では精密部品製造を中心に、納期短縮・コスト削減を実現するワンストップ工場として多くの顧客企業を支えています。この「一貫体制」こそが、環境負荷の少ない製造を可能にし、SDGsへの貢献につながっているのです。



◀Z-001 プロペラ機

端材が生まれ変わる。「ザオーブロック」

プレス加工で発生するアルミの廃材や端材を再利用して生まれた玩具が「ザオーブロック」です。六角レンチで組み立てる金属ブロックは、日本でいちばん面倒くさいブロックとしてワークショップや通信販売でも人気を博しています。恐竜や昆虫などのオブジェ制作を通じて、子どもたちの創造力を刺激し、ものづくりの楽しさを伝えています。この取り組みは、SDGsや3R(リデュース・リユース・リサイクル)の理念にも直結し、「端材を活かすBtoC商品」として高く評価され、東京TASKものづくりアワードや、おもてなしセレクションなど、数々の賞を受賞しています。



▲恐竜(非売品)

Story



手書きの給料袋に込めた、鈴木代表の経営哲学

代表の鈴木国博さんが子どもの頃、父から言われた一言。「いつか、自社製品を開発してくれよな」。この言葉が、ザオーブロック誕生の原点です。さらに鈴木さんは、毎月社員に手書きのメッセージ付き給料袋を渡すなど、人を想う経営を続けています。「ものづくりを通じて、社員も地域も幸せにしたい」との想いを胸に、ザオー工業を牽引しています。



安全と安心を追求して68年。
そこから発信される多彩な商品群

(株)ヨシオ



〒120-0031 足立区千住大川町20-11
☎03-3888-4567
<https://www.yoshio.net/>



「安全・安心・環境・OEM」技術とアイデア多角展開

反射材といえば夜道で光る蛍光色を思い浮かべがちですが、日常では「派手すぎる」と感じることもあります。そんな課題を解決するため、ヨシオが開発したのが「アンティークリフレクター」。革小物のような上品さを持ちながら、光を受けるとしっかり反射し、暗闇の中でも安全を守ります。カバンや自転車にもさりげなく付けられるデザイン性も魅力です。ヨシオでは担当者だけでなく、全社員から自由にアイデアを募り、優れた発想はすぐ製品化。創意を尊重する文化がものづくりを支えています。安全・安心・環境をテーマに多彩な製品を展開し、ウェルダー加工^{※1}技術を生かしたOEMにも注力。「4輪駆動経営」で社会に貢献しています。

※1 金属を熱で溶かして接合する加工方法。



◀反射前(アンティークリフレクター) ▲反射後

社員の提案を形にすることで新製品を開発

ヨシオでは、全社員が自由にアイデアを出し合い、発想を形にする文化が根付いています。その象徴が、子育て中の女性社員の発想から誕生した「オトスナテープ」です。テーブルの縁に貼るだけでこぼれ防止のふちを作れる便利アイテムで、2016年のTASKものづくり大賞で大賞を受賞し、今も人気商品として販売されています。社員の想いと夢を共有しながら、新しい製品を生み出しています。



▲オトスナテープ

Story



歴史を力に、未来へ挑戦する企業へ

1948年に三輪車メーカーとして創業したヨシオは、1967年のオイルショックで経営の危機に直面しましたが、「サドルにマンガをプリントする」という発想で再建を果たしました。創業者の諦めない心と発想で未来を切り拓く精神は、今も社内に息づいています。代表の小泉さんは「安心・安全・そしてアイデア」を掲げ、社員と共に社会に笑顔を届け続けています。





卓越した印刷技術で
全国にファンが広がる印刷会社

あんしんどう
(株) 安心堂



〒123-0872 足立区江北3-21-6
☎03-3896-6181
<https://anshindo.ink/>



足立発「ベビーシューズ
手づくりキット」全国へ発信

ファーストステップシューズ



〒123-0851 足立区梅田2-21-12
☎03-5681-2133
<https://1ststepshoes.com/>



◀手動式小型パッド印刷機「なんでもくん」

誰でも作り手になれる印刷機「なんでもくん」

安心堂の手動式小型パッド印刷機「なんでもくん」は、電源不要で扱いやすく、高品質な名入れ印刷が可能で印刷機です。購入導入できるため、既製品を「世界にひとつだけ」のオリジナル製品へと仕上げる用途で活用されています。ボトルや野球ボールなど幅広い製品に対応し、凹凸のある素材にも印刷可能です。専門的な印刷技術が必要とせず、安定した印刷品質を保てる点が特長で、名入れや試作工程を自社内で完結できる実用ツールとして評価されています。



▲平面ばかりでなく曲面や凹凸のある面にも印刷が可能

娘への靴づくりから生まれた「世界にひとつのギフト」



▲人気の最小サイズ8cmの「そらんじゅ」シリーズ

「娘のために靴を作ってみようと思ったんです」。代表・町田洋子さんのこの一言から、ファーストステップシューズの物語は始まりました。浅草の靴メーカーでデザイナーとして経験を積み、独立後に母となった町田さん。歩き始めた娘さんの足に合う靴が見つからなかったことをきっかけに、一足のベビーシューズを手作りされたそうです。可愛らしいその靴はママ友の間で評判となり、「うちの子にも作って!」という声が寄せられました。これが赤ちゃんのための手作り靴キット誕生の原点です。現在は足立区梅田の工房でご夫婦でものづくりを続けています。



▲代表の町田洋子さん

誰もが関われる、やさしい働く場づくり

安心堂は印刷だけでなく、地域に根ざした「人づくり・働く場づくり」にも力を入れています。児童養護施設の子どもたちと一緒に商品を企画・販売する「安心堂こどもCOMPANY」や、子育て中の方・生活保護受給者への内職提供など、誰もが社会と関われる仕組みを実践しています。印刷を通して人の居場所をつくるという姿勢が、地域企業の新しいモデルケースとして注目を集めています。



簡単に作れる「赤ちゃん靴の手作りキット」

ファーストステップシューズの人気商品は、裁縫や靴づくりの経験がなくても約2時間で作れる「ベビーシューズ手作りキット」です。革はすべて本革を使用し、パーツはカット済みで縫い穴も開けてあります。専用の針とロウ引き糸がセットになっているため、届いた日から制作ができます。ラインナップは、まだ歩けない時期に飾って楽しむ室内履きタイプ(8~11cm)、実際に歩けるゴム底付きの14cmタイプまで揃っています。



Story



▲代表の丸山有子さん(左)、創業者の父・故 丸山寛治さん(右)

苦境をチャンスに変えた二代目の決断

1974年の創業以来、「人に安心を届ける印刷」を掲げて歩んできた安心堂。創業者・丸山寛治さんの想いを継いだ二代目の丸山有子さんは、業績不振を乗り越え、大口生産や新技術への挑戦によってV字回復を実現しました。創業50年を迎えた今も、「地域と共に成長し、人の心に残る印刷を届けたい」という想いが、安心堂とゆうブランドの根幹に息づいています。

Story



足立ブランド認定と、地域に根ざした温かな活動

他社模倣の不安から区に相談したのが縁で、2009年に足立ブランドに認定されました。以来、地域イベントや児童館で子ども向けワークショップに積極的に参加しています。「子どもたちに教えるのが楽しくて、私は実は子ども好きなんだと気づきました」と笑う町田さん。仕事の根底には、「子どもたちの足に合った靴を届けたい」という想いが変わらずに流れています。





パッケージを総合プロデュース。
想いと価値を伝える存在へ

パッケージアート(株)



〒123-0854 足立区本木東町16-5
☎03-3840-4425
<https://www.packageart.co.jp/>



ギターケースが生んだ「パッケージアート」の象徴

パッケージアートは、段ボールや包装資材の製造・販売を通じて、「包装をアートのように高めたい」という思いを大切に歩んできました。三代目の小林正彦さんは、24歳で家業を継いだ際に社内改革を進め、EC事業^{※2}を立ち上げ、商品数は7,700点を超えるまでに成長しました。なかでも転機となったのが、音楽経験から生まれた「ギター梱包用段ボール」です。強度とサイズに優れ、約15万枚を販売し累計7,000万円を売り上げたこの製品は、段ボールが「包む」だけでなく、気持ちや価値を伝える存在になれることを示した一品です。

※2 インターネット上で商品やサービスを販売する事業。



7,700点以上を掲載「インザボックス」

自社で運営するECサイトでは、規格品のほか、好みのサイズへのカット加工や抜き加工にも対応しており、オーダーメイドのご注文も可能です。

ギターは企業のシンボルとなっています▶



▲箱の中の様子が分かる、梱包途中の写真

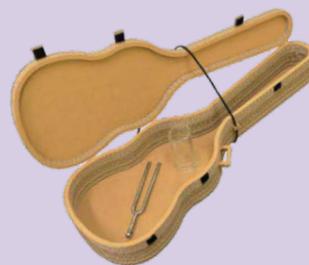
「つつむ」のスペシャリスト

パッケージアートは、オリジナルパッケージ製作のスペシャリストです。ブランドを理解するプランナー、試作もスピーディな自社工場を持つメーカー、そして資材を扱う商社という三つの強みで、初めての方でも、既存の箱に課題がある方でも、最適なフルカスタムを適正価格で実現します。年間800件超の相談から得た確かな提案力で、商品の魅力を最大限に高める「つつむ」をご提案します。



「つつむ」で未来をつくる

「わたくしたちは、パッケージを総合的にプロデュースするプロです。全社員一丸となり、『つつむ』を通じた新たな価値創造に取り組んでいます。気軽に相談できるコンシェルジュとして、高い付加価値を生むパートナーとして、お客様の思いに寄り添い、最適なパッケージを作り続けています。関わる人の幸せを追求してまいります」と代表の小林さんは語ります。



▲代表の小林正彦さん

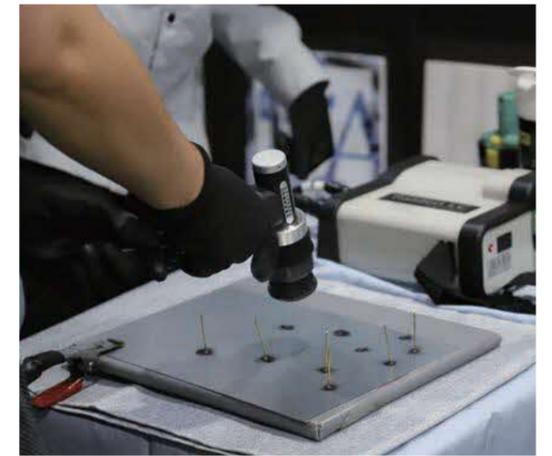


業界に新風をもたらす
溶接機械の革命的開発メーカー

いちもんきこう 一文機工(株)



〒121-0836 足立区入谷7-13-8
☎03-3897-9051
<http://www.ichimon-kiko.co.jp/>



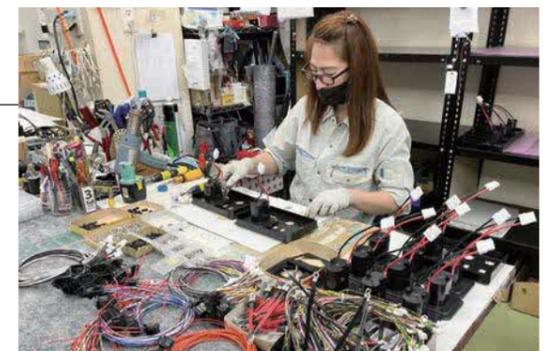
▲携帯可能な溶接機「雷電II」

溶接の世界に革命「携帯用溶接機」

足立区入谷に本社を置く一文機工株式会社は、12件の特許を取得し、革新的な製品開発で業界に新風を吹き込む技術者集団です。約10名の少数精鋭ながら、“あったらいいな”を形にする高い開発力で、建設・設備工事の現場に新たな価値を提供しています。特に注目されるのが、業界最軽量・最小の携帯型ピン溶接機「雷電II」。B5サイズ・約2.4kgのコンパクト設計で持ち運びやすく、直流・交流両対応のハイブリッド電源により、1回の充電で専用ピン約350本を溶接できます。従来の空調工事で必要だった接着剤や長い養生を不要にし、1,000分の3秒で確実な溶接を実現。火花や振動を抑え、安全性と作業効率を大幅に向上させる、まさに“溶接の概念を変える”革新的な製品です。

足立区発!!世界へ挑戦する技術開発企業

一文機工は、2012年に足立ブランド企業として認定され、国内外で注目を集めています。社内に弁理士を置き、特許出願から製品化までを一貫して行う独自体制で、世界市場にも対応できる開発力を確立。ODM供給中心から自社ブランド展開へと舵を切り、環境配慮型技術の開発も推進。足立から世界へ、新たな価値創造に挑戦しています。



Story

Story

災害・介護現場を支える新技術。“あったらいいな”を届ける

現在、一文機工が注力しているのが、非常用及び介護用の排泄処理システムの開発です。船舶用トイレの攪拌機構を応用し、汚物を攪拌・半固形化して悪臭を抑える衛生処理技術を実現。災害や介護現場でも活躍します。“あったらいいな”という社会の声を形にし、これからも社会課題の解決に向けて、技術力を活かした製品開発に取り組んでまいります。



▲代表の増田文一郎さん



経験とノウハウの蓄積による
金型製作と成形加工の熟練技

ごみちょうこくこうぎょうじょ
(有) 五味彫刻工業所

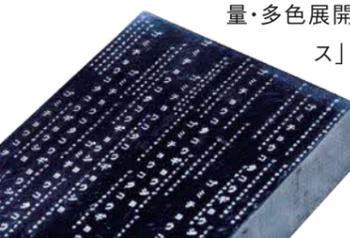


〒121-0012 足立区青井2-14-16
☎03-3880-7037
<http://gcm53.com/>



金型技術からグッズ開発へ五味彫刻工業所の挑戦

自動車やオートバイのエンブレム彫刻を手掛けていた有限会社五味彫刻工業所。印刷技術の進化による需要変化を受け、2002年には成形工場を設立し、金型製作から射出成形までの一貫生産体制を確立。有名テーマパークのキャラクターグッズ製作で多品種・少量・多色展開の技術を磨き、「皆が嫌がる仕事こそチャンス」と語る五味修氏の信念が、独自の強みを生み出しました。



マシニングセンターを用いることで、文字をよりシャープに表現します。



▲DOG TAG



▲MOTELKEY TAG

レトロデザイン×最新技術
「MOTEL KEY TAG」と「DOG TAG」

2016年、アメリカのモートル風キータグを再現した自社製品「MOTELKEY TAG」を発表。小ロットでも豊富なカラーバリエーションと自由なカスタマイズが可能で、アーティストやブランドの限定グッズとして人気を集めました。さらに2023年には、映画『トップガン』に着想を得た「DOG TAG」を発売。プラスチック素材で軽く丈夫、推し色展開にも対応する新感覚のファングッズとして注目を集めています。

Story



広がる“推し活”市場にフィットする新定番グッズ

アイデンティティを表現する「推し色」が定着した時代。五味彫刻工業所のタグシリーズは、豊富な色と小ロット生産対応で、“推し活”マーケットに最適な製品。プロ野球やプロサッカーチームからのオーダーもあり、グッズのニューアイテムとしてファンの方々にも喜んでいただいています。「金型から成形まで一貫して手掛ける強みを活かし、お客様の『こんなものを作りたい』を形にしたい」と五味さんは語ります。



服飾業界から絶大な信頼される縫製技術。
自社ブランド「マヤー」も展開中

(株) マーヤ



〒123-0871 足立区椿2-8-5
☎03-3899-5975
<https://marya.tokyo/>



東京に“自社アトリエ”を持つという選択

マーヤの最大の強みは、足立区に拠点を構える都市型縫製工場であることです。この地の利を活かし、デザイナーやパタンナー、プロデューサーと対面で打ち合わせを重ね、要望に応えることができます。「東京で服を作ることで、デザインの再現度や品質をその場で確認できる。作り手の顔が見える“アトリエのような工場”でありたい」。こうした姿勢が、地域に根ざしたものづくりを支えています。現在、SNSが発信力を持つ時代となり、工場を持たず外部生産でブランドを展開するスタイルが主流の中にあって、東京で縫製できる利便性が、新たな価値を生み出しています。



学生や異業種とのコラボで生まれるものづくり

マーヤは足立区の大学や企業との産学連携に取り組み、2022年には足立フォーラム21の仲介で「TamaCoffeeRoaster」「東京未来大学」「安心堂」と協働。使われなくなったコーヒー豆の麻袋をアップサイクルし、学生のアイデアから「TamaBag」を製作。素材の風合いと肌触りにこだわったバッグは、地域発のエシカルプロジェクトとして評価されています。



自社製品のFactelierを展開中!

裾などの生地がほつれないよう、細い糸で仕上げる「細メロウロック」仕立ては、強度と美しさの両立のために徹底されたこだわりです。



Story



▲専務取締役で工場長を務める菅谷正さん

MADE IN TOKYOの誇り—高級婦人服を支える技術

マーヤは1959年の創業以来、ワンピースやジャケット、コートなど高級婦人服の製作に取り組んできました。生まれも育ちも足立区の菅谷正さんは「長年の蓄積技術で、地域の誇りとなる服作りの事業を進めていきたい」と語ります。マーヤの縫製技術をお求めの方は、お気軽にお問い合わせください。

